

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601150		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホームファミリア植田 Bユニット		
所在地	愛知県名古屋市長区植田1丁目1807		
自己評価作成日	令和2年10月10日	評価結果市町村受理日	令和3年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiqyosyoCd=2371601150-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和2年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ1人ひとりが、利用者様一人ひとりの人間性や性格に配慮し、誇りやプライバシーを損なわないような声がけをしながらのケアを重視しています。ご本人のやれる事、したい事を見極めながら利用者様同士の関係にも配慮し、楽しくゆったりとした生活が送れるように生活空間づくりと環境を整え四季折々の行事やレクリエーションに組み込みながら支援しています。また医療面では、隣接する山内外科との連携を密に取り24時間体制で安心して頂けるよう健康管理を行っています。口腔面でもワイワイデンタルクリニックの医師、歯科衛生士と連携し口腔ケア及び維持管理を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来15年を迎える事業所は、マンションや戸建住宅、商店が立ち並ぶ街中に位置し、道路前には法人本部や医療機関がある。建物は鉄筋4階建て2ユニットのグループホームとなっている。1階と3階に各ユニットのリビングダイニングがあり、2・4階が居室となっている。入居者はエレベーターを自由に使い各階を行き来している。4階には広いベランダがあり、天気の良い日には周りの景色を眺めたり、お茶をする等憩いの場ともなっている。外出を控えているコロナ禍の今、近くの公園の美しい紅葉を眺めることが出来、移り行く季節を感じる事が出来る。医療法人の特色を活かし、24時間体制の医療提供と歯科医、歯科衛生士による口腔ケア等で入居者の健康面に配慮しながら、ひとり一人ができること、やりたいことを見極め、ゆったりと楽しい生活が送れるよう支援に努めている。新型コロナウイルス予防対策のため、外出支援や面会が規制されている中でも入居者はそれぞれの趣味を楽しんだり談話をしながら穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらい				
			3. 利用者の1/3くらい				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 Bユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念を施設内に掲示しスタッフ間に意識付け、実践に繋げています。また当施設では、個々にゆったり、のんびりとしたその人らしい生活ペースで暮らしを送れるように努めています。	事業所の理念は誰もがいつでも見ることのできる共用スペースの居間に掲示されている。理念に基づいた具体的なケアに活かすため、月1回のミーティングで確認しあい共有と実践につなげている。管理者は日々のケア行動を通して実践につながっているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりはまだまだですが、少しずつ散歩や買い物、地域の行事にも参加し、施設だけの生活にならないように、交流を図っています。	法人理事が町内会に加入し、回覧版等で地域情報を得ている。例年であれば地域の行事や散歩、買い物等に出かけ地域との交流を少しずつ深めていたが、本年度はコロナ禍のため地域行事は中止となり、外出も自粛している。外出が出来る環境が整えば、施設だけの生活にならないよう地域交流に努めていく。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記を実践し、少しずつ声をかけてくださる人や関心を示してくださる人も増えてきました。今後は施設内の行事等を通じもっと地域との関わりを深めていけるように努力したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、ご家族様利用者様からの意見や要望反映できるように努めています。いきいき支援センターの職員にも参加していただき、情報交換の場を設け、サービス向上に活かせるように努めています。	入居者や家族、民生委員、いきいきセンター職員、法人事務局が参加し2ヶ月に1回開催し、施設の状況や行事活動等を報告している。会議への参加者が限られており少ないことから目標達成計画に挙げ、改善に取り組んでいるところであるが、本年度はコロナ禍のため書面での開催となり、目標達成計画実施は停滞している。報告書を提出している。出された意見や要望はサービス向上に活かしている。	運営推進会議開催結果報告書の「参加者からの意見・要望に対する事業所としての対応」が3回とも同じ文面になっている。こんな時だから日々の変化に沿った情報提供を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所との連携の元、相談、指導等を受けながら、実情やサービスの取り組み、改善点に関しても協力関係を築いています。	コロナ禍の現状にあるが、業務上必要な事項の報告や連絡には関係窓口を訪れている。ほとんどの事案は書類やメールでのやり取りとなっている。現段階ではコロナ感染防止に努めオンライン化の必要性が課題と認識している。行政が行う研修も中止となっているが、リモートでの研修が検討されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯と利用者様の安全上やむえず施錠しておりますが、状況に合わせ解錠しています。身体面では利用者様の安全を考慮しご家族様の同意を得た上で最小限で行い、日々の業務のなかで話し合い安全なケアに取り組んでいます。	3ヶ月に1回の身体拘束適正化委員会を開き、現状を協議するとともに職員ミーティングや法人の研修会などで更なる理解を深めている。身体拘束が必要な時はマニュアルを基に家族の同意を得て、最小限の実施と記録をすると共に、拘束しないケアを工夫している。玄関は利用者の安全確保のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルに乗っ取りスタッフ間で互いに注意を払い、業務に当たりコミュニケーションを大切にし、ミーティングや法人の勉強会で学ぶ機会を設け予防に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者等が研修にいき、必要に応じて支援していただけるようにしています。法人での勉強会を通して、職員一人ひとり理解し支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者及び支援専門員より、当施設の方針や内容等について十分説明し納得していただいた上で、契約を交わし、入居していただいています。		
# (6)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二か月毎の運営推進会議の開催時や面会時等にご家族様からの意見や要望を伺う機会をもうけ運営に活かしています。	入居者には日常のケアの中で会話や行動から思いや、やりたいことなどを聞き記録しケアに活かしている。家族からは本来であれば面会や行事の時、運営推進会議等で意見や要望を聞き、話し合って運営に活かしているが、コロナ禍の現在、行事や面会も規制されているためコミュニケーションが取り難くなっている。電話やアンケート等で意見を求めてケアに活かすよう努めている。ご意見箱を設置している。毎月の「ふぁみりあだより」は家族に安心を届けている。	
# (7)		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回ミーティングや臨時的なミーティングを開催しその意見を元に問題点やスタッフの意見や提案聞く機会を設け、話し合いを持ち業務に反映させています。	月1回または随時の職員ミーティング等で意見や提案を聞くと共に日々の業務の中で気軽な会話を通して希望なども聞く環境にあり、運営やケアに反映させている。管理者は職員の動きや表情など常に意識し必要であれば個人面談を随時行い業務に反映させている。法人によるストレスチェックもある。異国籍の職員もおり職員同士意思疎通に留意している。	
#		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や勤務状況を把握し、公平に判断し各自の向上に努めて印す。また時間外については、必要に応じ給与に反映させています。		
#		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内の勉強会や施設内の勉強会を開催し、個々に参加する機会を設け、話し合いを持ち業務に反映させています		
#		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講習会への参加をする機会を設けサービスの向上に努めています。他に南東部GH交流会に加入し同業者と交流を図り相互訪問や勉強会等を通じサービス向上に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
#		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時よりご本人及びご家族様の意見に耳を傾け、入居後も要望など話しやすい環境づくりに努め、親しみやすく安心して生活いただけるよう関係づくりにつとめています。		
#		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学から契約の間もご家族様が安心していただけるように十分な説明を行うとともに、ご家族様やご本人様の話に耳を傾けスタッフ間での伝達を行い、信頼関係を築いています。		
#		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様や、ご家族様にとって、何が今必要なのかを、スタッフの目を通し見極め、安心していただけるようサービスの対応に努めています。		
#		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居までの生活リズムを崩さないように、一人ひとりの人間性や性格に配慮し、同じ目線で話をし、日常生活の営みの中で会話等を通じ教わることもあり共に暮らしていける関係を築いています。		
#		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談時よりご本人及びご家族様の意見に耳を傾け、入居後も要望など話しやすい環境づくりに努め、親しみやすく安心して生活いただけるよう関係づくりにつとめています。		
#	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室や衣類などご本人様に馴染みの品物等を用意していただけるよう支援し、昔からの馴染みの方々との関係も途切れないように支援し安心して生活していただけるように支援しています。	生活歴から馴染みの人や場所を把握し、時折知人訪問もしていたがコロナ禍の中、訪ねることは控えている。面会者や来訪もない状態であるが、入居者の希望があれば電話や手紙の支援をしている。また日々の会話のなかで昔のことなど話し合い、思い出等大切に、馴染みの関係が途切れない様な支援につなげている。	
#		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、気の合う利用者様同士テーブルに集うよう配慮し孤立してしまう利用者様には、スタッフが1対1で対応し、月に一つレクリエーションの一貫で、作品を共同で作るコミュニケーションがとれるように援助しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
#		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じ連絡を取り合い管家を大切に相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
#	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で訴えや意向に耳を傾け、把握に努め意思表示が困難な方に関しては表情や日頃の状況をスタッフ間で話し合い本人の意向にそえるよう努めています。	フェイスシートを参考にしたり、日々のケアの中で話の内容や表情、行動から把握し、個人記録に記し職員間で話し合い共有しながらケアに活かしている。意思表示が困難な場合は、本人本意に検討したり、必要に応じて家族の協力を得ている。	
#		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりフェイスシートやサマリーを活用し、ご家族様面会時等にも話を伺う機会を設け把握に努めています。		
#		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ同士の情報交換や申し送り、介護記録を活用し、一日の暮らしの中での状況を把握するように努めています。		
#	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各スタッフにケアプランの担当になってもらいご本人様、ご家族様の意見・意思を参考に介護計画に反映できるよう定期的に支援専門員及び計画作成者を交え話し合いを持ち支援計画を作成しています。	月1回のカンファレンスで情報交換を行い、モニタリングを随時行いながら6ヶ月ごとに介護計画を見直している。計画はモニタリングをもとに担当職員や介護支援専門員、計画作成者を中心に、家族や医療関係者等の意見を反映し現状に即した介護計画を作成している。提携医師は月に2回の往診があるので現状に即した意見をもらっている。随時の見直しも行っている。	
#		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録により情報を共有しミーティング等で話し合いケアの実践に活かしながら介護計画の見直しに役立てています。		
#		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いきいき支援センター等の協力の下、その時々で状況で社会資源を活用し、サービスを支援していけるようにつとめています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
#		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物先や外出先を決め外出の機会を増やし地域資源を活用しながら、暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
#	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	月二回の訪問診療や体調変化に応じて随時病院受診、夜間急変時等24時間対応していただき、ご本人様やご家族様に安心していただけるよう支援しています。	入居時かかりつけ医か協力医かの希望を聞いているが、原則提携医としている。提携医の往診は月2回で内科・外科、皮膚科の診療があり、歯科提携医もある。眼科や他の専門医は家族の対応としている。診察結果は記録し、申し送りや周知しケアに活かしている。家族への報告も行っている。夜間急変時等の24時間対応体制が整っており、適切な医療支援を行っている。	
#		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	週1回の訪問介護により健康管理と現状把握を行い随時山内外科の看護師、訪問看護師と連携を図り24時間適切な指示支援を受けられるように努めています。		
#		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者との情報交換や相談はは密に行うよう努め、関係作りを行っています。		
#	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の場合には、医師、看護師ご家族様との話し合いを持ち、十分に説明し理解、納得していただき、スタッフ間で状況を共有し、共に支援に取り組んでいます。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明し同意を得ている。状況が変化した時は早い段階から家族や医師、看護師、職員で話し合いを重ね、事業所で出来ることを十分説明し納得を得たうえで、方針を共有し支援に取り組んでいる。看取りのマニュアルを整備し研修を行い職員が安心して看取り支援に向き合える様取り組んでいる。看取りの実績もある。	
#		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや勉強会、年二回の避難訓練時、対応や予防について理解を深めています。事故発生時には速やかに医師、看護師に連絡が取れるよう体制を作っています。		
#	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、年二回の消防訓練を実施し、日頃から発生時に備え、利用者様が避難できるよう、装置の点検、確認を行っています。	年2回避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署立会いの下で実施しアドバイスを受けている。専門業者による消防施設の点検の際には通報の仕方など教わっている。災害時にはマニュアルを基に、法人の医院とも連携し対応できるような体制がとられている。備蓄は水や食料品を入居者と職員合わせて3日程度準備している。地域との協力体制構築までには至っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
#	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の立場に立ち、利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう、スタッフ間で注意しながら対応しています。時には方言等を交えながら親近感を持っていただける用、対応しています。	「人生の先輩」との思いを基本に入居者の誇りや人格を損ねることがないように、言葉かけや振る舞いなど対応に留意している。入居者の人柄に応じて方言も使い、親しみを出して柔軟に対応している。	
#		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様の希望に沿えるよう援助しています。また言葉ではうまく表現できない利用者様に対しては、表現等で察知できるよう働きかけています。		
#		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフのペースで行動するのではなく、利用者様一人ひとりの生活のペースにあわせて、過ごしていただけるよう空間作りに努めています。		
#		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の状態や気候にあわせて、好みの服装を選んだり、本人の代わりに支援しています。訪問美容師の方に2ヶ月に1回好みの髪型に整えていただいたり、馴染みの化粧品を用意していただいています。		
#	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一方的な介助支援にならないよう、本人の好き嫌いや意欲に配慮し、一人ひとりのペースにあわせて召し上がっていただけるように支援しています。可能な利用者様には盛りつけや片付けを手伝って頂くなどの支援に努めています	法人のセントラルキッチンで作られ真空パックされたものが届けられ、事業所で温めたり揚げたり、ちょっとした煮魚を作ることもある。主食と汁物も手作りしている。食事前には嚥下体操や歌をうたう等誤嚥防止の取り組みをしている。入居者は保有能力に合わせて盛り付けや片付けを職員と一緒にやっている。コロナ禍の中、行事食や希望を取り入れた食事、おやつ作りなど楽しみが持てる機会を多くする支援に努めている。	食事は入居者の感想を聞くだけでなく、職員も一緒に食して味や硬さ食感などを入居者と共に感じる「検食日誌」になることを望みたい。検食の形で、一人でもよいので見守りやコミュニケーションを取りながら食卓を盛り上げる支援に繋がることを期待したい。
#		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合わせた食事形態での摂取を行い食事量水分量は記録し、把握を行い、状況に応じて医師の指示の下、栄養補給や点滴を行って頂きながら、支援しています。		
#		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、利用者様の状態に合わせ、声掛け、介助等で口腔ケアを実施しています。また週1回の訪問歯科医、歯科衛生士によるケア、受診による口腔衛生を行って頂きながら支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
#	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、車いす利用の方でも、自走や立位など自立に向けた支援を行っています。また夜間もポータブルトイレや安眠できるようなパッド種類も随時検討しながら支援しています。	排泄チェック表により入居者個々の排泄パターンを把握したり、表情やしぐさなどから察知し声掛け誘導をしている。昼間はトイレでの排泄支援を心がけて、自立支援に向けた工夫として、生活時間や動作の流れを作り、無理のない支援になるよう心掛けている。夜間は睡眠を優先した支援に努め、パット類の検討をしたりポータブルトイレを利用している。便秘予防には体操や運動、乳製品摂取等自然排便を心がけた支援に努め、必要時は医師に相談をしている。	
#		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	筋力低下の影響もあり、便秘傾向の方が多く、一日2回のラジオ体操や天候に合わせた散歩等を実施したり乳製品をとるように心がけ、状況に応じて医師の指示の元下剤等の調整も行っています。		
#	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自立したかたは、ほぼ毎日介助の必要な方は入浴日を決め、援助しています。入浴できない方には、定期的に清拭を実施しております。また季節感を出すためにゆず湯を楽しんでいただいております。	入浴は週2回を基本としているが自立した方は希望によりほぼ毎日の入浴となっている。湯はかけ流しで清潔を保ち、好みの湯温で対応している。冬季はヒートショック防止に留意し、季節のゆず湯等楽しんでいる。入浴拒否の方には声のかけ方やタイミングを工夫したり、清拭等に変更している。シャンプー等好みの物を使用する方もある。	
#		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムにあわせて、日中の活動量を調整し、居室での休憩時間を確保し、安心して眠って頂けるよう支援しています。また必要に応じて医師と相談し入眠剤の検討も行っています。		
#		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師の指導の下服薬管理を行い、個別の看護記録による把握に努め、体調変化が見られるときは、直ちに相談し支援しています。		
#		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の変化を感じて頂けるよう、年二回の合同行事、花見や散歩など外気に触れ気分転換を図れるよう外出計画を行っています。		
#	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気を見ながら、利用者様の体調に合わせ、外出の機会を設け支援を行い、ご家族様の参加も呼びかけています。	天気の良い日には近くの公園に散歩に出かけたり、花見やいちご狩り、秋のバスツアー等普段行けない様なところにも行っていたが、今年度はコロナ禍のため外出は控えている。散歩や買い物等は環境が整えば支援を行っていく。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
#		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設立て替えであり利用者様に応じて、そのとき所持して頂き、買い物の援助を行い、利用者様の意識維持に努めています。		
#		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様了承のもと電話対応、手紙のやり取りは出来る限り本人の希望に沿えるよう支援しています。		
#	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れ、清潔感に配慮しながら、居心地のよい空間作りを大切にしながら、生活して頂けるよう工夫に努めています。	居間は清潔感を重視して、作品や写真などは控えてスッキリとしている。居間と居室は階が分かれているが、入居者はエレベーターを利用して施設内を自由に移動している。共用空間は温度や湿度調節がなされ、眩しさを防ぐためカーテンの利用などで刺激を少なくし穏やかな空間が保たれている。入居者はテレビを見たりソファでくつろぐ姿が見られる。	
#		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人の思い通りに穏やかな時間を過ごしていただけるよう、利用者様同士、気軽に行き来出来るように配慮しています。		
#	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みのもの、写真や馴染みの物などを飾るなど工夫し、居心地のよい部屋作りに配慮しています。	入居時には家族と相談して、日頃使い慣れた家具や小物などを持ち込み、写真や好みの物で飾り自分らしい部屋作りを工夫している。窓は少し開け換気を促している。	
#		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り自由に楽しんで行動して頂けるよう、ケアを提供し、一方的にならないよう、「できること」「わかること」を確認しながら、安全な環境作りを工夫し、自立した生活を送って頂けるよう工夫して支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371601150		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホームファミリア植田 Aユニット		
所在地	愛知県名古屋市中区植田1丁目1807		
自己評価作成日	令和2年10月10日	評価結果市町村受理日	令和3年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoVoCd=2371601150-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和2年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ1人ひとりが、利用者様一人ひとりの人間性や性格に配慮し、誇りやプライバシーを損なわないような声がけをしながらのケアを重視しています。ご本人のやれる事、したい事を見極めながら利用者様同士の関係にも配慮し、楽しくゆったりとした生活が送れるように生活空間づくりと環境を整え四季折々の行事やレクリエーションに組み込みながら支援しています。また医療面では、隣接する山内外科との連携を密に取り24時間体制で安心して頂けるよう健康管理を行っています。口腔面でもワイワイデンタルクリニックの医師、歯科衛生士と連携し口腔ケア及び維持管理を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来15年を迎える事業所は、マンションや戸建住宅、商店が立ち並ぶ街中に位置し、道路前には法人本部や医療機関がある。建物は鉄筋4階建て2ユニットのグループホームとなっている。1階と3階に各ユニットのリビングダイニングがあり、2・4階が居室となっている。入居者はエレベーターを自由に使い各階を行き来している。4階には広いベランダがあり、天気の良い日には周りの景色を眺めたり、お茶をする等憩いの場ともなっている。外出を控えているコロナ禍の今、近くの公園の美しい紅葉を眺めることが出来、移り行く季節を感じる事が出来る。医療法人の特色を活かし、24時間体制の医療提供と歯科医、歯科衛生士による口腔ケア等で入居者の健康面に配慮しながら、ひとり一人ができること、やりたいことを見極め、ゆったりと楽しい生活が送れるよう支援に努めている。新型コロナウイルス予防対策のため、外出支援や面会が規制されている中でも入居者はそれぞれの趣味を楽しんだり談話をしながら穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 Aユニット

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念を施設内に掲示しスタッフ間に意識付け、実践に繋げています。また当施設では、個々にゆったり、のんびりとしたその人らしい生活ペースで暮らしを送れるように努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりはまだですが、少しずつ散歩や買い物、地域の行事にも参加し、施設だけの生活にならないように、交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記を実践し、少しずつ声をかけてくださる人や関心を示してくださる人も増えてきました。今後は施設内の行事等を通じもっと地域との関わりを深めていけるように努力したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、ご家族様利用者様からの意見や要望反映できるように努めています。いきいき支援センターの職員にも参加していただき、情報交換の場を設け、サービス向上に生かせるように努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所との連携の元、相談、指導等を受けながら、実情やサービスの取り組み、改善点に関して協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯と利用者様の安全上やむえず施錠しておりますが、状況に合わせ解錠しています。身体面では利用者様の安全を考慮しご家族様の同意を得た上で最小限で行い、日々の業務のなかで話し合い安全なケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルに乗っ取りスタッフ間で互いに注意を払い、業務に当たりコミュニケーションを大切に、ミーティングや法人の勉強会で学ぶ機会を設け予防に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者等が研修にいき、必要に応じて支援していけるようにしています。法人での勉強会を通して、職員一人ひとり理解し支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者及び支援専門員より、当施設の方針や内容等について十分説明し納得していただいた上で、契約を交わし、入居していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二か月毎の運営推進会議の開催時や面会時等にご家族様からの意見や要望を伺う機会をもうけ運営に活かしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回ミーティングや臨時のミーティングを開催しその意見を元に問題点やスタッフの意見や提案聞く機会を設け、話し合いを持ち業務に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や勤務状態を把握し、公平に判断し各自の向上に努めて印す。また時間外については、必要に応じて給与に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内の勉強会や施設内の勉強会を開催し、個々に参加する機会を設け、話し合いを持ち業務に反映させています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講習会への参加をする機会を設けサービスの向上に努めています。他に南東部GH交流会に加入し同業者と交流を図り相互訪問や勉強会等を通じサービス向上に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時よりご本人及びご家族様の意見に耳を傾け、入居後も要望など話しやすい環境づくりに努め、親しみやすく安心して生活いただけるよう関係づくりにつとめています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学から契約の間もご家族様が安心していただけるように十分な説明を行うとともに、ご家族様やご本人様の話に耳を傾けスタッフ間での伝達を行い、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様や、ご家族様にとって、何が今必要なかを、スタッフの目を通し見極め、安心していただけるようサービスの対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居までの生活リズムを崩さないように、一人ひとりの人間性や性格に配慮し、同じ目線で話をし、日常生活の営みの中で会話等を通じ教わることもあり共に暮らしていける関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談時よりご本人及びご家族様の意見に耳を傾け、入居後も要望など話しやすい環境づくりに努め、親しみやすく安心して生活いただけるよう関係づくりにつとめています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室や衣類などご本人様に馴染みの品物等を用意していただけるよう支援し、昔からの馴染みの方々との関係も途切れないように支援し安心して生活していただけるように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、気の合う利用者様同士テーブルに集うよう配慮し孤立してしまう利用者様には、スタッフが1対1で対応し、月につレクリエーションの一貫で、作品を共同で作リコミュニケーションがとれるように援助しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じ連絡を取り合い管家を大切に相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で訴えや意向に耳を傾け、把握に努め意思表示が困難な方に関しては表情や日頃の状況をスタッフ間で話し合い本人の意向にそえるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりフェイスシートやサマリーを活用し、ご家族様面会時等にも話を伺う機会を設け把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ同士の情報交換や申し送り、介護記録を活用し、一日の暮らしの中での状況を把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各スタッフにケアプランの担当になってもらいご本人様、ご家族様の意見・意思を参考に介護計画に反映できるよう定期的に支援専門員及び計画作成者を交え話し合いを持ち支援計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録により情報を共有しミーティング等で話し合いケアの実践に活かしながら介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いきいき支援センター等の協力の下、その時々で状況で社会資源を活用し、サービスを支援していけるようにつとめています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物先や外出先を決め外出の機会を増やし地域資源を活用しながら、暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療や体調変化に応じて随時病院受診、夜間急変時等24時間対応していただき、ご本人様やご家族様に安心していただけるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問介護により健康管理と現状把握を行い随時山内外科の看護師、訪問看護師と連携を図り24時間適切な指示支援を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者との情報交換や相談はは密に行うよう努め、関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の場合には、医師、看護師ご家族様との話し合いを持ち、十分に説明し理解、納得していただき、スタッフ間で状況を共有し、共に支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや勉強会、年二回の避難訓練時、対応や予防について理解を深めています。事故発生時には速やかに医師、看護師に連絡が取れるよう体制を作っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、年二回の消防訓練を実施し、日頃から発生時に備え、利用者様が避難できるよう、装置の点検、確認を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の立場煮立ち、利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう、スタッフ間で注意しながら対応しています。時には方言等を交えながら親近感を持っていただける用、対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様の希望に沿えるよう援助しています。また言葉ではうまく表現できない利用者様に対しては、表現等で察知できるよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフのペースで行動するのではなく、利用者様一人ひとりの生活のペースにあわせて、過ごしていただけるよう空間作りに努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の状態や気候にあわせて、好みの服装を選んだり、本人の代わりに支援しています。訪問美容師の方に2ヶ月に1回好みの髪型に整えていただいたり、馴染みの化粧品を用意していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一方的な介助支援にならないよう、本人の好き嫌いや意欲に配慮し、一人ひとりのペースにあわせて召し上がっていただけるように支援しています。可能な利用者様には盛りつけや片付けを手伝って頂くなどの支援に努めています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合わせた食事形態での摂取を行い食事量水分量は記録し、把握を行い、状況に応じて医師の指示の下、栄養補給や点滴を行って頂きながら、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、利用者様の状態に合わせ、声掛け、介助等で口腔ケアを実施しています。また週1回の訪問歯科医、歯科衛生士によるケア、受診による口腔衛生を行って頂きながら支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、車いす利用の方でも、自走や立位など自立に向けた支援を行っています、また夜間もポータブルトイレや安眠できるようパッド種類も随時検討しながら支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	筋力低下の影響もあり、便秘傾向の方が多く、一日2回のラジオ体操や天候に合わせた散歩等を実施したり乳製品をとるように心がけ、状況に応じて医師の指示の元下剤等の調整も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自立したかたは、ほぼ毎日介助の必要な方は入浴日を決め、援助しています。入浴できない方には、定期的に清拭を実施しております。また季節感を出すためにゆず湯を楽しんでいただいております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムにあわせて、日中の活動量を調整し、居室での休憩時間を確保し、安心して眠って頂けるよう支援しています。また必要に応じて医師と相談し入眠剤の検討も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師の指導の下服薬管理を行い、個別の看護記録による把握に努め、体調変化が見られるときは、直ちに相談し支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の変化を感じて頂けるよう、年二回の合同行事、花見や散歩など外気に触れ気分転換を図れるよう外出計画を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や天気を見ながら、利用者様の体調に合わせて、外出の機会を設け支援を行い、ご家族様の参加も呼びかけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設立て替えであり利用者様に応じて、そのとき所持して頂き、買い物の援助を行い、利用者様の意識維持に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様了承のもと電話対応、手紙のやり取りは出来る限り本人の希望に沿えるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れ、清潔感に配慮しながら、居心地のよい空間作りを大切にしながら、生活して頂けるよう工夫に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人の思い通りに穏やかな時間を過ごしていただけるよう、利用者様同士、気軽に行き来出来るように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みのもの、写真や馴染みの物などを飾るなど工夫し、居心地のよい部屋作りに配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り自由に楽しんで行動して頂けるよう、ケアを提供し、一方的にならないよう、「できること」「わかること」を確認しながら、安全な環境作りを工夫し、自立した生活を送って頂けるよう工夫して支援しています。		